

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
小倉リハビリテーション学院		平成16年3月30日		宮崎 澄雄		〒 800-0206 (住所) 福岡県北九州市小倉南区葛原東2-2-10 (電話) 093-473-8005			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人巨樹の会		平成2年3月20日		蒲池 真澄		〒 811-0213 (住所) 福岡県福岡市東区和白丘2-1-12 (電話) 092-607-0053			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
医療	医療専門課程	作業療法学科 昼間コース		平成19(2007)年度	-	平成29(2017)年度			
学科の目的	作業療法士として、必要な知識、技術及び豊かな人間性と職業倫理を習得させ、専門職としての自覚と誇りを持ち、社会に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	作業療法士国家試験受験資格								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		3,150 単位時間	1,500 単位時間	330 単位時間	990 単位時間	0 単位時間	330 単位時間
		単位		単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
120 人	110 人		0 人		0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		32 人						
	■就職希望者数(D)		32 人						
	■就職者数(E)		32 人						
	■地元就職者数(F)		17 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		53 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	(令和 7 年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等		(令和7年度卒業生)							
病院、クリニック、医療介護福祉施設など									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構(有効期限: 2024年4月1日～2029年3月31日) 受審年月: 2023年11月中 評価結果を掲載したホームページURL: https://kokura-rehajp/information/evaluation.html								
当該学科のホームページURL	http://kokura-rehajp/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				1,020 単位時間				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				990 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				30 単位時間				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち必修授業時数				1,020 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				990 単位時間				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				30 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				950 単位時間				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B: 単位数による算定)								
	総授業時数				単位				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち必修授業時数				単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				6 人				
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				2 人				
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人				
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人				
	計				8 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				0 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業と連携し、最新の技術・知識、必要とされる人材を反映した授業内容の工夫とともに、社会貢献できる人材の育成を目指した臨床実習の内容・指導方法の工夫を行っていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会を設置し、実践的かつ専門的な職業教育を実践するために、企業等の外部委員と連携を図りながら、専門分野に関する意見や要請等を反映する教育課程(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)の編成を行う。
編成委員会には外部委員だけではなく、学科の責任者が内部委員として参加する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
志田 啓太郎	福岡県理学療法士会 保健福祉担当理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
本永 一記	福岡県代表代議員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
佐藤 稔	福岡県作業療法協会 事務局長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
堤 裕太郎	社会医療法人財団 池友会 新小文字病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
帖佐 美里	社会医療法人財団 池友会 新行橋病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
吉田 裕美	社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
前田 竜也	社会医療法人財団 池友会 新小文字病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
神崎 大樹	社会医療法人財団 池友会 新行橋病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
馬渡 亜樹子	社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
磯邊 恵理子	小倉リハビリテーション学院 副学院長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
秋山 嘉和	小倉リハビリテーション学院 理学療法学科 教務部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
佐伯 和則	小倉リハビリテーション学院 作業療法学科 教務部長代行	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
林 輝真	小倉リハビリテーション学院 理学療法学科 教務主任	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
岡部 貴文	小倉リハビリテーション学院 理学療法学科 教務主任	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
栳島 真理	小倉リハビリテーション学院 作業療法学科 教務副主任	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
増見 伸	小倉リハビリテーション学院 理学療法学科 教務副主任	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
井上 祥教	小倉リハビリテーション学院 理学療法学科 教務副主任	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (開催時期)8月、3月

(開催日時(実績))
第1回 令和7年8月20日(水)14:00～16:00
第2回 令和8年3月16日(月)14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
今回の教育課程編成委員会では主体性の向上や生成AIの活用について意見交換を行った。
主体性の向上にむけて、個別面談を通じた明確な目標設定やキャリアパスの形成に加え、演習等での成功体験を通じて得意分野を作り伸ばしていく指導を学内教育にも取り入れている。また、生成AIに関しては、単に利用制限するのではなくリテラシー教育と適切な活用方法の指導を並行して行う重要性の指摘を受けた。これに基づき、まずは教員が業務効率化等で積極的に活用を進め、教育指導への実践的な導入を図っている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
学校法人巨樹の会では、学校と医療・福祉業界が協力して、臨床現場で求められる人材を育成し業界に送り出してきた。特に、実習・演習に関しては業界と連携し、初年次より段階的に業界と連携しながら、知識・技術のみならず医療人としての倫理・態度の育成に力を入れている。また、授業内容においては、業界の最先端の知識・技術について意見交換し、適宜改善を行っている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
1年次・2年次には対象者の理解と医療人としてのルール・マナーを学ぶ基礎的な演習を実施し、3年次には、最前線の医療現場を経験し、卒業時に必要な知識・技術及び自己研鑽できる人材育成を実習先と共同し、指導をしている。また、多くの業界現場の経験を得ることを目的として、科目外においても任意で見学及び体験実習を受け入れてもらえるよう整備を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
対人関係演習Ⅰ	人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。	株式会社シダー
臨床実習Ⅰ	作業療法の臨床現場を見学し、作業療法士からの話を聞く中で、作業療法的観点などを学ぶ。	福岡新水巻病院・新小文字病院・新行橋病院 他
臨床実習Ⅱ-1	作業療法に関する基礎的な知識と地域リハビリテーションの知識をもとに、地域包括ケアシステムにおける施設の役割を理解する。	介護老人保健施設等
臨床実習Ⅲ	各疾患の評価及びリハビリテーションプログラム立案及び治療までの一連の流れを経験し、作業療法士の思考過程を学習する。	福岡新水巻病院・新小文字病院・新行橋病院・原宿リハビリテーション病院・五反田リハビリテーション病院 他
臨床実習Ⅳ	社会的ニーズに対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに治療計画立案力・実践能力を身に着ける。各障害、各病期などを偏りなく対応できる能力を培う。	福岡新水巻病院・新小文字病院・新行橋病院・新久喜総合病院・蒲田リハビリテーション病院 他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

医療の専門職として社会貢献できる人材育成のため、授業及び学生に対する指導力向上のため、教員に対し研修会の参加・研究・学会発表に積極的に取り組むよう促している。具体的には、学校法人巨樹の会主催の教育研修や関連施設と協力した臨床研修及び研究を行っている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	九州作業療法学会in宮崎	連携企業等:	九州作業療法士会
期間:	令和7年6月21日(土)22日(日)	対象:	学科教員
内容	作業療法のこれからを考える		
研修名:	第49回日本高次脳機能学会学術総会	連携企業等:	日本高次脳機能学会
期間:	令和7年11月14日(金)15日(土)	対象:	学科教員
内容	脳力共創 多職種で拓く高次脳機能の未来		
研修名:	第29回 福岡県作業療法学会	連携企業等:	福岡県作業療法協会
期間:	令和7年11月29日(土)30日(日)	対象:	学科教員
内容	真善美で紡ぐ作業療法の未来		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ICT中央研修	連携企業等:	学校法人巨樹の会
期間:	令和7年8月6日(水)	対象:	学科教員
内容	iPad内のアプリ利活用		
研修名:	第38回教育研究大会・教員研修会	連携企業等:	全国リハビリテーション学校協会
期間:	令和7年10月18日(土)19日(日)	対象:	学科教員
内容	「NEXT リハビリテーション教育」		
研修名:	カリキュラム委員 中央研修	連携企業等:	学校法人巨樹の会
期間:	令和8年3月19日(木)	対象:	全教員
内容	反転授業を用いた講義展開について		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第13回 成人発達障害支援学会	連携企業等:	成人発達支援協会
期間:	令和8年9月5日(土)6日(日)	対象:	学科教員
内容	発達支援プログラムで得られた知の社会実践		
研修名:	第11回 日本臨床作業療法学会 学術大会	連携企業等:	日本臨床作業療法学会
期間:	令和8年12月19日(土) 20日(日)	対象:	学科教員
内容	テーマ「日進月異」		
研修名:	第30回 福岡県作業療法学会	連携企業等:	福岡県作業療法協会
期間:	令和8年3月7日(日)	対象:	学科教員
内容	テーマ「シン・未来」		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	九州イノベーションWeek 九州教育現場支援	連携企業等:	九州イノベーションWEEK 実行委員会
期間:	令和8年6月3日(水)4日(木)	対象:	全教員
内容	講演および展示会		
研修名:	カリキュラム委員 中央研修	連携企業等:	学校法人巨樹の会
期間:	令和8年8月21日(金)	対象:	全教員
内容	自己調整学習		
研修名:	ICT委員 中央研修	連携企業等:	学校法人巨樹の会
期間:	令和8年8月28日(金)	対象:	全教員
内容	テーマ:教育現場での生成AI活用		
研修名:	第39回教育研究大会・教員研修会	連携企業等:	全国リハビリテーション学校協会
期間:	令和8年9月26日(土)27日(日)	対象:	学科教員
内容	「連携が拓く」リハビリテーション教育の未来		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を通じ、教育活動及び学校運営を点検し、継続的に改善することにより、社会の変化に対応できる学校組織を目指すとともに、情報公開により学校の透明性向上を図る。また、自己評価・学校関係者評価を行うことを通して、全教職員が学校の状況や目標・方向性を共有し、教育活動及び学校運営の改善を円滑に推進する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①教育理念・目的・人材育成像の明確化
(2)学校運営	①事業計画の策定 ②運営組織・意思疎通機能の明確化
(3)教育活動	①教育理念に沿った教育課程編成・実施方針の策定
(4)学修成果	①就職率向上への努力 ②退学率・留年率低減の努力
(5)学生支援	①学生相談及就職相談に関する体制整備
(6)教育環境	①教材及び教育環境改善の取組 ②臨床実習における環境改善の取組
(7)学生の受入れ募集	①高等学校等への適切な情報提供
(8)財務	①中長期的な学校の財務基盤の安定
(9)法令等の遵守	①法令・設置基準等の順守と適正な運営 ②個人情報保護対策
(10)社会貢献・地域貢献	①学校施設を活用した社会貢献・地域貢献 ②学生ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員の方から、医療職としての意識が高まるように診療報酬の改定情報や勤務体制などの現場情報を学生へ伝えてほしい、という意見をいただいた。引き続き臨床現場を実感できる教育に努める。また社会情勢を踏まえて「ハイブリッド教育」を検討していく必要性についても話し合った。本校の魅力を十分に伝えられていない部分もあるため、専門学校の魅力をアピールするような説明へと再度見直しを図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
伊藤 均美	北九州市立沼市民センター 館長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	地域住民
岡田 和敏	西南女学院大学 保健福祉学部福祉学科 教授	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	学術委員
船津 昌章	折尾愛真高等学校 進路指導主事	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	高校等評価委員
鳥井 聡	一般社団法人日本海員掖済会 門司掖済会病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
角川 政喜	公益財団法人 健和会 大手町診療所	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生
岩木 大佐	介護老人保健施設 桜丘	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: URL:http://kokura-reha.jp/evaluation/

公表時期: 2026年7月31日

公表時期:	2026年7月31日
-------	------------

授業科目等の概要

医療専門課程 作業療法学科 昼間コース																
分類				授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	講 義						演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
1	○			心理学	対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を養う。また、リハビリテーション治療過程にかかわる学習理論、動機付けを理解する。	1 年 前 期	30	2	○			○			○	
2	○			基礎教養	文章の基本となる文章構成を理解し、説得力のある論理的な文章表現力を身につける。また文章表現だけでなく、日常会話でも必要となる敬語表現を身につける。	1 年 前 期	30	2	○			○			○	
3	○			対人関係演習Ⅰ	医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。自己と他者、様々な人間関係の在り方を学び、人間関係におけるコミュニケーション技法を施設演習を通して理解する。	1 年 前 期	30	2	△	○	△	○	○	○		○
4	○			対人関係演習Ⅱ	フィールドワークを通じてコミュニケーションスキルの実践を行い、自己課題を認識する。対象者を尊重し、共感的態度をもってより良い人間関係を構築できる。	1 年 後 期	30	2	△	○	△	△	○	○		
5	○			統計学	基礎的な統計処理を学習し、作業療法に必要な臨床研究の基礎を養う。	2 年 後 期	30	2	○			○		○		
6	○			情報処理	PCの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究、レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を養う。	2 年 後 期	30	2			○	○			○	
7	○			物理学	物体の運動を通じて物理現象を理解し、科学的な見方・考え方を身に付け、リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を養う。	1 年 前 期	30	2	○			○		○		
8	○			解剖学Ⅰ	正常な人体の動物機能にかかわる骨・筋及び神経系の形態と構造を理解する。	1 年 前 期	30	2	○			○		○		
9	○			解剖学Ⅱ	正常な人体における神経系の形態及び構造を理解する。正常な人体における生物系機能並びに意識的感覚や精神機能にかかわる形態・構造を理解する。	1 年 後 期	30	2	○			○		○		
10	○			生理学Ⅰ	生理学の基礎である細胞生理を理解したうえで、人の生理学的（植物）機能を理解する。	1 年 前 期	30	2	○			○			○	
11	○			生理学Ⅱ	情報の受容と処理、体の支持と運動など人の動物性機能を理解する。	1 年 後 期	30	2	○			○			○	

12	○		運動学Ⅰ	身体の構造と身体の姿勢保持・運動との関係を理解する。上肢の骨・関節・靱帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。	1 年 前 期	60	4	○			○		○		
13	○		運動学Ⅱ	下肢の骨・関節・靱帯・筋の構造と体幹の構造と運動について理解を深め、人間の姿勢変換運動という複合的な運動を学習する。	1 年 後 期	30	2	○			○		○		
14	○		運動学演習Ⅰ	上肢の骨・筋に対して作業療法介入時に必要となる触知のための基本的知識・技術を身に付ける。	1 年 前 期	30	2	△			○	○	○		
15	○		運動学演習Ⅱ	下肢および脊柱の骨・筋に対して作業療法介入時に必要となる触知のための基本的知識・技術を身に付ける。	1 年 後 期	30	2	△			○	○	○		
16	○		人間発達学	身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解するとともに、人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する	1 年 後 期	30	2	○			○		○		
17	○		リハビリテーション 基礎医学Ⅰ	ヒトが運動・活動するために必要な栄養学を含めた諸要素の基礎、それらへの加齢・不活動の影響及び生活習慣病について学習し、運動の必要性を理解する。	1 年 前 期	30	2	○			○		○		
18	○		リハビリテーション 基礎医学Ⅱ	病態把握に必要な画像の診かた及び薬物療法の基礎について理解する。	1 年 後 期	30	2	○			○			○	
19	○		医学概論	医療倫理、健康と病気概念、疾病の分類を学び病気の診断と治療の概要を理解する。	1 年 前 期	30	2	○			○		○		
20	○		病理学概論	病因の枠組みを理解し、炎症・感染・免疫・血行障害・退行変化や腫瘍などの細胞変化の基本を理解する。	2 年 前 期	30	2	○			○			○	
21	○		整形外科学	整形外科領域のリハビリテーション対象疾患の疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。	2 年 前 期	30	2	○			○			○	
22	○		内科学	内科領域におけるリハビリテーション対象疾患の疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。	2 年 前 期	30	2	○			○			○	
23	○		神経内科学	神経内科領域におけるリハビリテーション対象疾患の疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。	2 年 前 期	30	2	○			○		○		
24	○		臨床心理学	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法などの心理療法を理解する。	1 年 後 期	30	2	○			○			○	
25	○		精神医学	精神疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。	1 年 後 期	30	2	○			○		○		
26	○		リハビリテーション 作業療法Ⅰ	様々な分野で活動している臨床家の話を聞くことで作業療法士という専門職の役割を理解する。	1 年 前 期	30	2	○			○			○	

27	○		リハビリテーションと作業療法Ⅱ	作業療法士に関連する制度を理解したうえで、チームにおけるリハビリテーション職種の役割を認識する。また、対象者理解に必要な視点を身に付ける。	1年後期	30	2	○			○			○	
28	○		基礎作業学Ⅰ	作業療法における作業の意味・特性を理解し、作業療法における治療的効果の概要を理解する。	1年前期	30	2	△	○		○		○		
29	○		基礎作業学Ⅱ	作業療法が作業活動を媒介とした様々な対象者への治療・指導・援助技術であることを理解し、具体的に適用する方法を学ぶ。	1年後期	60	2	△	○		○		○		
30	○		基礎作業学Ⅲ	様々な作業療法場面で用いられる作業活動と評価(分析・解釈)、介入方法を具体的に知る。	2年前期	30	1	△	○		○		○		
31	○		生活機能演習	生活行為向上マネジメントについて学び、対象者の生活機能を専門的視点で課題解決する能力を養う。	2年後期	30	1	△	○		○		○		
32	○		作業療法管理学	作業療法の職場管理学において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。	3年前期	30	2	○			○		○		
33	○		基礎評価学演習Ⅰ	作業療法を実施するための評価として、特に基本となる医療面接、バイタルサイン、関節可動域測定などに関して理解し実施および記録できることを目標とする。	1年前期	60	2	△		○	○		○		
34	○		基礎評価学演習Ⅱ	作業療法を実施するための評価、統合と解釈、問題点の抽出、作業療法プログラム作成などの一連の思考過程を学ぶ。特に筋力検査などに関して理解し実施および記録できることを目標とする。	1年後期	60	2	△		○	○		○		
35	○		基礎評価学演習Ⅲ	作業療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。	2年前期	30	1	△		○	○		○		
36	○		基礎評価学演習Ⅳ	作業療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。	2年後期	30	1	△		○	○		○		
37	○		臨床評価学演習Ⅰ	基礎評価学演習Ⅰで学んだ内容について理解したうえで、健常者を対象に実施できることを目標として技術の習得を図る。	1年前期	30	1			○	○		○		
38	○		臨床評価学演習Ⅱ	基礎評価学演習Ⅱで学んだ内容について理解したうえで、健常者を対象に実施できることを目標として技術の習得を図る。	1年後期	30	1			○	○		○		
39	○		日常生活活動学演習Ⅰ	日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、ADL障害に対して動作の支援、援助方法を理解し実践する。さらに障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。	1年後期	30	1	△	○	△	○		○		
40	○		日常生活活動学演習Ⅱ	self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。さらにADL評価の意義および検査方法を理解する。	2年前期	30	1	○	△	△	○		○		

41	○		義肢学	切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義手の種類、適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。	1 年後期	30	1	○			○		○						
42	○		装具学	装具学では、装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。	2 年前期	30	1	○	△	△	○		○						
43	○		高齢期の作業療法	高齢期における生理的老化・認知症の理解と作業療法について学ぶ。	2 年後期	30	1	○			○		○						
44	○		中枢神経疾患の作業療法学Ⅰ	脳血管障害の発生機序と障害像を把握した上で、急性期・回復期の作業療法を理解する。	2 年前期	60	2	○		△	○		○						
45	○		中枢神経疾患の作業療法学Ⅱ	脊髄損傷・小脳疾患・神経筋疾患等の作業療法について学ぶ。	2 年後期	30	1	○			○		○						
46	○		運動器疾患の作業療法学	整形疾患（骨折、関節疾患、末梢神経損傷、腱損傷など）の原因、病理、症状を理解し、作業療法評価および治療について学ぶ。	2 年後期	60	2	○			○		○						
47	○		内部障害系疾患の作業療法学Ⅰ	代謝疾患および循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび作業療法を理解する。	2 年前期	30	1	○			○		○						
48	○		内部障害系疾患の作業療法学Ⅱ	呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび作業療法を理解する。	2 年後期	30	1	○		△	○		○						
49	○		小児疾患の作業療法学	小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび作業療法を理解する。	2 年前期	30	1	○			○		○						
50	○		精神障害の作業療法学Ⅰ	認知症高齢者を含む精神医療における現状、利用できる制度及び社会資源を理解する。また、精神疾患の対象理解とリハビリテーションの概念を踏まえ、作業療法理論と構造、技術及び作業療法評価の基礎を理解する。	2 年前期	60	2	○			○		○						
51	○		精神障害の作業療法学Ⅱ	精神障害領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の治療的方法について理解する。	2 年後期	60	2	○			○		○						
52	○		高次脳機能障害の作業療法学	高次脳機能障害の神経心理学的評価方法を習得し、生活障害の特徴を理解する。外傷性脳損傷を含み高次脳機能障害者の全体像を把握し、作業療法介入の方法を理解する。	2 年後期	30	1	○			○		○						
53	○		作業療法学技術演習Ⅰ	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床場面で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、骨関節疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の作業療法行為を段階的に学ぶ。	2 年前期	60	2		○		○		○						

54	○		作業療法学 技術演習Ⅱ	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床場面で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、中枢神経系疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の作業療法行為を段階的に学ぶ。	2 年後期	60	2		○		○		○						
55	○		作業療法学 総合学習Ⅰ	臨床実習の経験を元に、国家試験の基礎となる専門基礎科目の知識の定着を図る。	3 年後期	60	2		○		○		○						
56	○		作業療法学 総合学習Ⅱ	臨床実習の経験を元に、作業療法士として必要な知識を獲得し、基礎専門領域・専門領域の統合を図る。	3 年後期	60	2		○		○		○						
57	○		作業療法学 総合学習Ⅲ	臨床実習の経験を元に、作業療法士として必要な知識を獲得し、基礎専門領域・専門領域の統合を図る。	3 年後期	60	2		○		○		○						
58	○		生活環境学	障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。	2 年後期	30	2	○			○		○						
59	○		地域作業療法学 演習	地域作業療法の実際を知り、地域リハビリテーションについての理解を深める。	2 年後期	30	2	○	△		○		○						
60	○		臨床実習Ⅰ	チーム医療について学び、病院で働く理学療法士・作業療法士の仕事や役割について理解する。	1 年後期	45	1				○		○			○	○		
61	○		臨床実習Ⅱ-1	地域包括ケアシステムにおける施設見学や一部の業務補助を体験することで、対象者へ接する「態度」や「対応」を育むとともに、地域包括ケアシステムに関与する関連職種の役割を理解する。	2 年後期	45	1				○		○			○	○		
62	○		臨床実習Ⅱ-2	精神科医療機関、認知症関連施設において、精神障害者の障害特性や生活のしづらさ、精神科作業療法の実際など、精神科領域における作業療法士の役割を理解する。	2 年後期	90	2				○		○			○	○		
63	○		臨床実習Ⅲ	施設において作業療法士の役割・チーム医療について学ぶ。 また、情報収集や観察、対象者に適した評価の選択・実施を経験することで学内で学んだ知識を統合する。	3 年前期	360	8				○		○			○	○		
64	○		臨床実習Ⅳ	情報収集や観察・対象者に適した評価の実施、及び得られた結果の統合と解釈を行い、問題点の抽出、治療目標・治療計画を立案する一連の流れについてより具体的に経験・学習する。	3 年前期	450	10				○		○			○	○		
合計					64	科目	3150 単位（単位時間）												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：すべての授業科目の単位修得を認定されたもの		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：講義・演習・実習により履修する		1 学期の授業期間	17 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。